



小川中だより "燦々"

自主性
感性
敬愛

No. 40 平成31年3月15日(金)発行 文責：いわき市立小川中学校長 津田 直人

＜第56回卒業証書授与式を挙る＞

3月13日(水)に、第56回卒業証書授与式が盛大に挙行されました。当日は天気にも恵まれ、穏やかな春の気配の中の卒業式となりました。

卒業生入場から始まり、最も大切な卒業証書の授与、校長式辞、来賓祝辞、記念品授与、記念品贈呈、在校生送る言葉、卒業生別れの言葉、式歌と式は進みました。3年生の式歌では、ステージ前に3年生が勢揃いし、保護者や在校生に向かって「旅立ちの日に」を歌い上げました。最後の卒業生退場では、感極まって目に涙を浮かべる生徒も多数見られました。

今年度の卒業生は69名です。これからは、それぞれの道に進むわけですが、小川中学校の同窓には変わりはありません。仲間との友情はこれからも深めてほしいと思います。いくつになっても、中学校での思い出は胸に残っています。69名の旅立ちを祝福するとともに、今後のますますの活躍を期待しています。



卒業証書の授与



卒業記念品の授与



卒業記念品の贈呈



卒業生 別れの言葉



式歌「旅立ちの日に」



贈呈された卒業記念品



祝い桜

＜標語コンクール表彰式を実施＞

3月11日(月)の13時から校長室において、青少年育成市民会議小川地区推進協議会主催の、平成30年度標語コンクール「自分と人へのメッセージ」の表彰式が行われました。

入賞作品については、小川郷駅など町内に掲示されます。また、参加賞が応募者全員に贈られました。



＜県立高校Ⅱ期選抜合格発表＞

卒業式の翌日の3月14日(木)に、県立高校の合格発表(Ⅰ期・Ⅱ期)がありました。

夏の中体連が終わってから、3年生にとっては長い努力の日々でした。昨年7月から学力テストを毎月実施し、目標とする高校に必要な学力を身に付けようと、一生懸命学習に励んできました。「学問に王道なし」で、自分で努力する以外に力をつける方法はありません。もちろん、自分に合った勉強方法などについてアドバイスを求めたり、分からない内容について質問したりすることはできます。しかし、実際に質問したり、問題を解いたりするのは自分です。

受験勉強は特別なものではありません。授業で学習した内容の復習です。しかし、その内容は5教科の3年分と多いことです。大切なことは、「早く始めること」です。つまり、今学習した授業内容をすぐに復習することです。「授業内容は、その日のうちに復習する」、「定期テストの範囲をしっかりと復習する」、「テスト後は、必ず復習する」など、こういったことが既に受験勉強になります。これらを行っておけば、3年生になった時に、理解が不十分な内容を重点的に学習することができ、余裕を持って受験勉強を進められます。1・2年生の皆さんは、まずは春休みの時間を十分活用して、復習に取り組むことが大切です。

< 3・11から8年 >

今週の3月11日(月)で、東日本大震災からちょうど8年となりました。月日が経つのはあっという間だとつくづく感じます。卒業した3年生は小学校1年生でしたので、今の中学生には、当時の記憶はあまりないかも知れません。

当日、中学校では、朝の放送集会で校長から震災について1分ほど話をしました。また、地震発生時の14:46には、全校生徒・教職員で黙祷を捧げました。私の知人にも、津波で最愛の家族(娘さん)を亡くされた方がいます。その当時は、どんな言葉をかけたらよいか、正直分かりませんでした。あれから8年も経ちますが、家族の方々の心の痛みは消えることはないと思います。しかし、その家族の皆さんは、前を向いて生きています。

震災に関する話の中で、心に残っている話を掲載します。この話は、震災から2年後の平成25年2月に、世界銀行副総裁を務めた西水美恵子さんが「日本から学ぶ10のこと」という題で、毎日新聞に寄稿したものです。

「日本から学ぶ10のこと」

東日本大震災が発生したとき、英領バージン諸島に在留中。午前2時前に、世界銀行ワシントン本部から東京に出張中の部下からの国際電話で起こされた。

・部下からの電話

「今、帝国ホテルに向かって歩いている……ミエコの同胞は素晴らしい……強い余震が来る中で……誰も彼もが落ち着き払って……まわりの人を思いやって……助け合っている……こんな民族が住む国がこの世にあったなんて……信じられない……ミエコの国はすごい」

・発展途上国はもとより、米国のような先進国でさえ、自然災害の後には、必ずと言っていいほど略奪や暴動などの人災が突発する。彼女は、その恐ろしさを、身をもって知っていた。だからこそ、わが同胞の行動に深い感動を受け、魂が揺さぶられたのだろう。

・ワシントンに戻った彼女から「これが(震災後の日本人のとった行動が)世界銀行やIMFはもとより世界中を駆け回っている」と、1通のメールが転送されてきた。

“10 things to learn from Japan” (日本から学ぶ10のこと)

①The Calm (平静)

悲痛に胸を打つ姿や、悲嘆に取り乱す姿など見当たらない。悲しみそのものが気高い。

②The Dignity (威厳)

水や食料を得るためにあるのは、秩序正しい行列のみ。乱暴な言葉や、不作法な動作など、ひとつとてない。

③The Ability (能力)

例えば驚くべき建築家たち。ビルは揺れたが、崩れなかった。

④The Grace (品格)

人々は、皆が何かを買えるようにと、自分に必要な分だけを買った。

⑤The Order (秩序)

店舗では、略奪が起こらない。路上では、追い越し車も警笛を鳴らす車もない。思慮分別のみがある。

⑥The Sacrifice (犠牲)

50人の作業員が、原子炉に海水をかけるためにとどまった。彼らに報いることなどできようか。

⑦The Tenderness (優しさ)

レストランは値を下げる。無警備のATMはそのまま。強者は弱者を介助する。

⑧The Training (訓練)

老人も子どもも、すべての人が、何をなすべきかを知っていた。そして、すべきことをした。

⑨The Media (報道)

崇高な節度を保つ報道。愚かな記者やキャスターなどいない。平静なルポのみがある。

⑩The Conscience (良心)

停電になった時、レジに並んでいた人々は、品物を棚に戻して静かに店を出た。

真のインスピレーション(感動)を感じる。日はずる国でおこっていることに(部下は大変感動したことを伝えている。)

西村さんは、最後に「私たちが当たり前だと思っていることを、いかに世にまれなことかと驚異の念をもってたたえ、だから日本人は大丈夫だと支えてくれる人々が、世界に大勢いることを忘れてはならない。」と結んでいます。私たちは、このような日本人の国民性、道徳性を誇りに思っってよいのではないかと思います。

来週の予定

月 日	曜日	給食	お も な 行 事
3月18日	月	○	放送朝会
3月19日	火	○	1年生球技大会(3・4校時) 2年生球技大会(5・6校時) PTA体育文化後援会・運営委員会 III期選抜出願
3月20日	水	○	ノー部活デー
3月21日	木	/	春分の日
3月22日	金	×	修了式 教室移動
3月23日	土	/	年度末休業日(～3月31日)